



台湾、AI産業の黄金期へ — AI産業を支える台湾 —



肥後銀行
台北駐在員事務所 所長
本島 知明

1. 米シリコンバレー企業と台湾の「二人三脚」

近年、生成AIに使用される「GPU^{※1}」を手掛ける大手半導体ファブレス企業NVIDIA（米国）の時価総額が4兆米ドル（約590兆円）を超えるなど、AI産業は世界の注目の的となっています。私たちユーザーは「ChatGPT」（米OpenAI社）や「Gemini」（米Google社）などの生成AIアプリケーションを目にする機会が多いですが、その陰では多くの台湾企業がAI産業を支えていると言われています。

AIの頭脳に相当する「GPU」は、米NVIDIAや米AMD社などが設計したものを、台湾の台湾積体電路製造（以下TSMC）が受託製造しています。GPU製造にはTSMCが保有する微細化技術と先端封止技術（CoWoS等）が欠かせないため、TSMCがNVIDIA社のGPU製造を実質的に独占していると言われています。また、実際にAI処理を行う「AIサーバー」製造においても米国のクラウド各社（Google、Microsoftなど）から受注を受けた鴻海（Foxconn）、廣達（Quanta）、緯創（Wistron）等の台湾のEMS（電子機器受託製造）企業が製造しており、受託製造分野では世界シェア90%超を掌握しています。サーバーの構成する基盤、電源供給、液冷システムなどの供給も多くの台湾企業が担うため、「AIは台湾無くして成立しない」と言われています。（図1）

なお、米NVIDIAのCEOジェンソン・フアン氏（黄仁勳）、米AMD社のリサ・スー氏（蘇姿丰）のいずれも台湾南部の台南市生まれの台湾系米国人であり、AI産業において台湾は大きな存在感を持っています。

※1 GPU（Graphics Processing Unit）は、画像や映像の描画処理を高速に行うために開発されたプロセッサであり、AIでは機械学習の分野で重要な役割を果たす。

以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより

アクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

（入力は数分で終わります）

[会員の方はこちらから](#)